

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

シビルエンジニアになって早 21 年。最初の 7 ～ 8 年間は道路・用水路・ほ場整備などの測量・設計に携わり、現在の会社に入社した 2003 年（平成 15 年）以降は、主に農業用ダムの耐震・設計・機能診断・調査・解析を担当しています。

CAD に憧れてコンサルに入社したため、実際に操作したときには、めちゃくちゃ感動したことを今でも覚えています。会社での立場の変化に伴い CAD を使用する頻度は激減しましたが、描いた図面が現場で形になるのは相変わらず嬉しいのです。

技術士の受験は 2004 年（平成 16 年）が最初でしたが、択一問題や経験論文は別として、与えられたテーマに対して頭の中で文章構成を考え、それを数時間で書く練習と考えていたため、案の定不合格です。

翌年、上司の助言から受験部門を道路部門から農業部門に変更し再チャレンジしてみました。この年は寝る暇が無いほど忙しく、「今年も受けるだけか……」と何も準備せず試験に臨んだところ、「文豪の神が降臨したか!？」と思えるくらいスラスラと文章が書けて、筆記試験は合格。

ここまできたら「合格するぞ!」と思ったものの、あがり症だったため口頭試験では心臓の音が全員に聞こえていると思うくらい緊張し、頭は真っ白……。そんな中、面接官の優しい笑顔と「ゆっくりで良いですよ!」の言葉で我に返り、頭がフル回転。無事合格することができました。

「冗談か?」と思われるくらいの合格談ですが、あれから早 10 年。若い頃、「コンサルは線一本引くのにも理由がある」と教わり、「選ぶ仕事を間違った!」と思ったこともあります。様々な立場の技術者が力を合わせて一つのことを成し遂げる現在の仕事を誇りに思っています。

山本 将礼 (やまもと のぶひろ)

● 農業部門（農業土木）

勤務先

NTC コンサルタンツ株式会社
北海道支社



→次号は、後藤秀樹さん（農業／総合技術監理部門）

大学時代に恩師の書棚にあったスペインデザイナーの作品集を見て橋梁の美しさに感銘を受け、将来は橋梁に携わる仕事がしたいと考えようになりました。大学卒業後、建設コンサルタントに入社し、幸いにも橋梁の部署に配属され、約 9 年間にわたり設計及び施工管理業務に従事することができました。現在は橋梁や建築関連の免制震デバイスメーカーに所属し、以前とは違った視点から橋梁関連の仕事に携わっております。

現在の会社は、1948 年（昭和 23 年）に鋳物の街である埼玉県川口市に鋳造会社を設立しました。その後、橋梁用の鋼製及びゴム支承製造に着手し、2012 年（平成 24 年）には兵庫県にあった工場を北広島市に移設し、道内はもとより道外事業の橋梁用伸縮装置を製造しております。

技術士は 2006 年（平成 18 年）3 月に登録しました。初めて名刺に「技術士」の肩書を入れた時は、資格取得の達成感でいっぱいだったことを覚えております。しかし、すぐにその肩書の重さを痛感するとともに、資格取得が終着点ではなく、さらに自己研鑽していくという始発点であることを身に染みて感じました。手探り状態で始めた試験勉強ではありましたが、前職や現職の諸先輩方から多くのアドバイスをいただき合格することができました。現在でもその諸先輩方とは公私ともにお付き合いをさせていただいております。振り返ると私の人生の中で、人との出会いが非常に重要な要素を構成し、分岐点になっていることを感じております。

今後の生活においても“一期一会”の心を大切に過ごしていきたいと考えております。

槇 正二郎 (まき しょうじろう)

● 建設部門（鋼構造及びコンクリート）

勤務先

株式会社川金コアテック
構造機材本部



→次号は、西村公利さん（建設部門）